

スポーツイベント開催に対する地元住民の評価

原田尚幸（鹿屋体育大学）

1. 緒言

一般市民参加型のスポーツイベントは、近年全国各地で開催されている。これらのスポーツイベントでは、地域の活性化や知名度の向上、あるいはイベント開催による経済効果が期待されている（湯澤，1992）。

地域レベルで開催される一般市民参加型のスポーツイベントでは、運営組織、参加者、そして地元住民が求める各ベネフィットの獲得がイベント成功の重要なポイントのひとつであると推察される。しかしながら、これまでのスポーツイベントに関する研究の多くは、主に参加者だけを対象に報告されてきたのが現状である。そこで本研究では、スポーツイベントの開催地に在住する地元住民に着目し、スポーツイベント開催に対する評価を明らかにしようと試みた。

地元住民のスポーツイベント開催に対する評価を明らかにすることは、住民が地元で開催されているスポーツイベントをどのように捉え、また何を望んでいるのかを明らかにすることが可能であると推察される。調査により得られた結果は、イベント運営にフィードバックすることによって、より良いスポーツイベントのあり方を模索することが可能であると考えられる。

そこで本研究の目的は、スポーツイベント開催地に在住する地元住民を対象にして、スポーツイベント開催に対する評価を明らかにすることにより、今後のイベント運営に有効な情報をフィードバックすることにある。

2. 研究方法

本研究では、スポーツイベント開催に対する地元住民の評価を明らかにするために、鹿児島県A市に在住する地元住民を調査対象とした。A市は、13,079世帯で人口30,719人（2001年4月30日現在）の地方都市であり、2001年で20回を数える一般市民参加型のスポーツイベント（マラソン）が開催されている。

調査は、A市在住の18歳から80歳までの男女500人を対象に、2001年5月26日から28日にかけて調査員が直接訪問して質問紙を配付し、記入後郵送にて回収する配付郵送調査法を実施した。その結果得られた有効サンプル数は238であり、回収率は47.6%であった。

主な質問内容は、サンプルの個人属性、マラソン開催に対する関心・態度・満足度・期待、そして評価（29項目、「非常にそう思う」から「全くそう思わない」までの5段階尺度）である。データの分析では、地元住民のスポーツイベント開催に対する評価因子を明らかにするために、因子分析（バリマックス回転）を実施した。因子の解釈は、固有値が1以上であり、因子負荷量が.450以上になることを基準とした。

3. 結果の概要

本研究で得られたサンプルの主な属性は、性別が男性38.4%、女性61.6%となっており、平均年齢は45.7歳、平均居住年数は28.4年であった。婚姻は、未婚25.9%、既婚72.7%、その他1.4%となっていた。主な職業は、主婦（パート含む）31.7%、会社員29.9%、自営業11.8%の順となっていた。

地元住民のスポーツイベント開催に対する評価では、平均値が高かった上位5項目として、「A市の知名度が向上（4.45）」、「A市のイメージアップ（4.31）」、「環境破壊につながる（4.06）」、「地域経済の活性化（3.99）」、「治安が悪くなる（3.99）」があげられた。知名度の向上やイメージアップ、地域経済の活性化というスポーツイベント開催に対する肯定的な評価の反面、環境破壊や治安の悪化といった地元住民の生活と関連した否定的な評価もなされていた。

表1は、スポーツイベント開催に対する評価を構成する因子を明らかにするために実施した因子分析の結果を示したものである。分析の結果、4つの因子が抽出され、全分散に対する累積寄与率は63.6%であった。各因子の信頼係数（ α 係数）は、第1因子が.887、第2因子が.866、第3因子が.807、第4因子が.682となっていた。本研究では、第1因子を「地域振興」、第2因子を「契機」、第3因子を「生活環境」、第4因子を「規模」と命名した。この結果は、スポーツイベントの開催に対して、地元住民の評価の基準を示唆しているものと推察される。

表1 マラソン大会に対する評価因子（バリマックス回転後）

評価項目	因子負荷量				Cronbachの α 係数
	F1	F2	F3	F4	
【地域振興】 (FAC 1)					
7. A市のイメージアップ	.847				.887
5. A市の知名度が向上	.769				
9. 地域に愛着や誇りが持てる	.726				
1. 地域経済の活性化	.611				
23. A市の国際化が進む	.582				
25. 子供のスポーツ活動に良い影響	.491				
3. 選手との交流	.489				
4. 地元住民同士の交流	.486				
6. A市のスポーツ施設が充実	.483				
【契機】 (FAC 2)					
20. 自分のスポーツ活動が活発化		.809			.866
15. マラソンに興味を持った		.727			
10. 自分の健康状態を気にする		.711			
17. スポーツ用品を購入するきっかけ		.683			
26. 余暇時間の有効利用		.574			
【生活環境】 (FAC 3)					
21. 環境破壊につながる			.841		.807
12. 治安が悪くなる			.772		
8. 住民の経済的負担が増える			.694		
2. 景観が悪化する（ゴミの増加）			.595		
【規模】 (FAC 4)					
19. イベント開催で重要なことは参加者の増加				.659	.682
27. 開催するからには日本一の規模に				.630	
固有値	7.22	2.75	1.54	1.22	
寄与率 (%)	36.1	13.8	7.7	6.1	
累積寄与率 (%)	36.1	49.8	57.5	63.6	

スポーツイベントの開催地に在住する住民の中には、沿道に出て参加者に声援をおくる人もいれば、ボランティア・スタッフとしてイベント運営に携わる人もいる。宿泊施設や飲食店などで参加者にホスピタリティを発揮するのも地元住民である。スポーツイベント開催に対する住民の理解や協力が得られなければ、参加者に満足を与えたり、イベントを発展させることは難しいと考えられる。

本研究で得られた結果は、スポーツイベント開催に対する地元住民の理解と協力を促進するうえで多くの示唆を与えてくれるものと推察される。

発表当日は、資料を補足して詳細な報告を行う。